

吹奏楽部の絆は永遠

名取第二中学校（現高校1年生） 阿部 遙

私は、吹奏楽部。最後の夏のコンクールに向けての練習中、三月十一日の震災は起こりました。毎日当たり前のように仲間に会えていたのに、震災の影響で、仲間と会う事や連絡を取る事さえ困難になりました。私は、今自分の置かれている激変した状況についていく事が出来ず、毎日不安な気持ちで一杯でした。ようやく仲間と連絡がとれ、会う事が出来るようになるると、当たり前だった平凡な毎日とはとても大きいものに感じられるようになりました。

練習も再開し、また楽器を吹ける環境に戻ると、私自身生き生きとしていることに気づきました。コンクールの練習をしていると、震災で色々な思いを経験した部員の一人一人が大きく成長しているように感じました。顧問の先生にも、「亡くなった人のためにも演奏しよう。その人たちの魂を音楽にのせるような気持ちでコンクールでは演奏してほしい」と言われました。

その言葉を受け、私たちはコンクールにのぞみました。結果は銀賞でしたが、私たちの団結力や絆は震災以前にも増してますます強いものとなりました。一つの音楽をみんなで作ってくれたので、いい関係は築けたのだと私は思います。そしてこの絆は卒業して大人になって以後も続けていくと信じてやみません。そして、後輩の部員たちにもつなげられたことだと思っています。

この経験を踏まえ、私はこの春から高校生になります。高校生活の中でも新たな絆をつくり、もうひとまわり自分は成長していきたいと今は新しい生活を楽しみにしています。